

【声に出して読む】 俳句 与謝蕪村 一

春の海 ひねもすのたり のたりかな

はるのうみ ひねもすのたり のたりかな

菜の花や 月は東に 日は西に

なのはなや つきはひがしに ひはにしに

五月雨や 大河を前に 家二軒

さみだれや たいがをまえに いえにけん

夕立や 草葉をつかむ 風の音

ゆうだちや くさはをつかむ かぜのおと

【声に出して読む】 俳句 与謝蕪村 二

春雨や 隣の人も 旅人と

はるさめや となりのひとも たびびとと

初しぐれ 猿も小蓑を ほしげなり

はつしぐれ さるもこみのを ほしげなり

夜の秋 桔梗に月を 吸はせけり

よるのあき ききようにつきを すわせけり

牡丹散り てふ蝶もおはず ひる昼閑か

ぼたんちり ちようもおはず ひるしずか

【声に出して読む】 俳句 与謝蕪村 三

行く春や 鳥啼き魚の 目は泪

ゆくはるや とりなきうおの めはなみだ

春の夜や 桜に涼む 上臈じょうろうかな

はるのよや さくらにすずむ じょうろうかな

馬に草 春かせて見る 枯尾花

うまにくさ つかせてみる かれおばな

木枯や 竹斎の肘 折れんばかり

こがらしや ちくさいのひじ おれんばかり

【声に出して読む】 俳句 与謝蕪村 四

夏河を 越すうれしさよ 手に草履

なつかわを こすうれしさよ てにぞうり

雪の朝 二の字二の字の 下駄の跡

ゆきのあさにのじにのじの げたのあと

古郷や 臼の音して 夜半の冬

ふるさとや うすのおとして よわのふゆ

荒海や 佐渡によこたふ 天の川

あらうみや さどによこたう あまのがわ

【声に出して読む】 俳句 与謝蕪村 五

冬牡丹 老僧の眉 うごきけり

ふゆぼたん ろうそうのまゆ うごきけり

春風や 堤長うして 家遠し

はるかぜや つつみながうして いえとおし

目にかかる 時や椿の 垣根哉

めにかかる ときやつばきの かきねかな

霜の朝 開けたる鶴の 瘦やせ姿

しものあさ あけたるつるの やせすがた